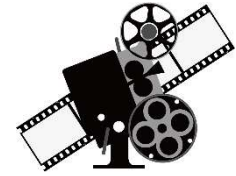


2016年

映画と講演 「映画をとおして人権を考える」



第1回人権問題講演会

日時：9月4日（日）13：30～16：30

場所：コムズ・5階・大会議室

内容：映画「人間の街—大阪・被差別部落—」1986年ドキュメント作品

講演：「差別って いったいなんやねん？」

講師：山口県人権啓発センター

事務局長 川口 泰司 さん

映画の概要

郵便局勤務の男性の語りから始まる。彼のところには名指しで「職場をやめろ、死んでしまえ」などという手紙が来る。差別は厳然として存在している。この映画は被差別部落の人々の様々な語りから、その差別の重さを感じさせる。いくつかの物語をつなぎ合わせて、人間の持つ輝きを拾い集めようとしている。

部落の男性と結婚した女性は結婚後15年たっても家族との交流がない。しかし、彼らは差別に打ちひしがれてはいない。「部落は私の命です」と母は語り、息子も「部落がふる里」と言い切る。

第2回人権問題講演会

日時：10月2日（日）13：30～16：30

場所：コムズ・5階・大会議室

内容：映画「パレードへようこそ」2015年日本公開作品

講師：東京レインボープライド

代表 杉山 文野 さん

進行：レインボープライド愛媛 代表 エディ さん

映画の概要

「本当にあったことだなんて、とても信じられなかった。」と映画を製作したプロデューサーがそう語る。本当にあった驚きの感動秘話の映画化。

1984年、イギリスは不況に喘いでいた。サッチャー首相が発表した20カ所の炭鉱閉鎖案に抗議するストライキは4ヶ月目に入ろうとしていた。その様子をニュースで見っていたマークは、炭鉱労働者とその家族を支援するために、ゲイの仲間たちと募金活動をしようと思いつく。友人のマイクを強引に誘い、行動しながら早速募金を呼びかけるのだった。折しもその日は、ゲイの権利を訴える大々的なパレードの日だった。

第3回人権問題講演会

日時：11月6日（日）13：30～16：30

場所：コムズ・5階・大会議室

内容：映画「誰も知らない」2004年公開作品

講演：フリーライター

杉山 春 さん

映画の概要

1988年に実際に起きた「巣鴨子ども置き去り事件」を題材に、是枝裕和監督が15年の構想の末に映画化した人間ドラマ。母親に置き去りにされた4人の子どもたちが、大人に知られることなく、兄妹たちだけで生きていく姿を通じて、家族や周辺の社会のあり方を問う。

2004年カンヌ国際映画祭で長男役の柳楽優弥が最優秀主演男優賞を受賞する。

杉山 春

雑誌編集者を経てフリーライターとなった。子育てや親子問題を扱った著書「ルポ・虐待」「ネグレクト・育児放棄」などがある。